

『岩を土台とする人生』

マタイ7：24～29

はじめに

この聖書箇所背景と状況。この喩えは、比較が強調されるが類似点もある

二人の共通点（類似点）

- ・共に家を建てた……ちゃんとした家（建て方、資金、素材、）
- ・共に似た生活環境と条件……水の出る、風当たりの強い、表面は砂地
- ・共に同じ試練と災難を受けた
- ・共に死後のさばきを受ける

「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように」（ヘブル9：27）

二人の相違点

- ・一方は守られ、他方は倒れた……行き先は天国と滅びに分かれる
- ・一方は岩の上に、他方は砂の上に土台を置いた ・一方は賢い人で、他方は愚かな人であった

救いの土台は何か

- ・キリストのみ言葉、キリストのみ心、キリストご自身のことです。

「だれも、すでに据えられている土台のほかにほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。」（Iコリント3：11）

- ・イエスをキリストと信じる信仰告白です。

「シモン・ペテロが答えていった。『あなたは、生ける神の御子キリストです。』するとイエスは、彼に答えて言われた。『バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。』（マタイ16：16～18）

- ・信仰義認

「人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。」

（ローマ3：28）

救いの召しと選びを確かなものにする

24節の「行う者」は、「行いや実践」それ自体のことではありません。主の言葉を聞いて、信じて我がものとし、自分の人生をキリストに結合するということです。

「ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行っていれば、つまりくことなど決してありません。」

（IIペテロ1：10、同1：11参照）

- ・『主はご自分に属するものを知っておられる。』また、『主の御名を呼ぶものは、誰でも不義を離れよ。』

（IIテモテ2：19）

土台があれば、救いは保証される

- ・「だれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」（Iコリント3：14、15）

むすび

29節にイエスが「権威ある者のように教えられた」とあります。23節にも特別の権威をもっておられることを語られました。だから群衆は驚いたのです。（28節）

山上の垂訓の最後に、素晴らしい教えを語られたイエスが、神の啓示者、神の独り子であられることを信じて、このイエスを自分の人生の土台に据える信仰の決断と努力が必要です。それが賢い人の生き方です。